

4章 総合問題4

問題

【1】

解答例

太古の人間は人間と動物が異なるものだとは思わなかった。このことは鳥獣に関するお伽話や迷信に反映されている。動物が人間より劣るという考えは、人間と動物の本質的な相違を認識するに至った近代の考えである。〔99字〕

○第2文は以下の内容でもよい：

「鳥獣に関するお伽話や迷信はその時代の名残である。」

解説

《指針》

本文の主題は第1文に集約される：

「太古の人間は人間と動物が異なるものだとは思わなかった。」

残りの文は主題を補足する具体的記述となる：

①生命は靈魂によって与えられ、それを包む肉体は問題ではなかった。

②原始人は祖先が鳥獣であることを不可能とはみなさなかった。

〔→ お伽話での動物との結婚は奇異なことではない。〕

③「下等な動物」という考えは人間と動物の本質的な相違の認識に基づく近代の考えである。

〔← 知識の発達に伴い、人間と結婚する動物は人間に姿を変えるようになった。〕

④古代人は生物を特別な才能の持主と見なした。

〔= 古代人は生物を自分より優れた知性の持主と見なした。〕

⑤お伽話の知的な動物は動物と人間が対等であった時代の名残である。

〔= 鳥獣に関する多くの迷信は、鳥獣の劣等さではなく優秀さの認識に基づく。〕

↓

上記の具体的記述の中では「主題」と対立的な意味内容を含む③が答案に含めるのに最も適当と思われる：

「太古の人間は人間と動物が異なるものだとは思わなかった。動物が人間よりも劣るという考えは、人間と動物の本質的な相違を認識するに至った近代の考えである。」〔73字〕

↓

字数を満たすために何らかの情報を付け加える：

上記具体例のうち、①～③は「主題」と重複するので、重複しない意味内容を含む⑤を選ぶ。

我々の太古の祖先は、人間と動物の間に違いがあるなどという考えをほとんど持たなかった。彼らにとって、生命を持つものはすべてある精霊によって生命を与えられており、それを取り囲んでいる肉体の形態など問題ではなかった。原始時代の人間は、自分の部族が獣や鳥を祖先に持つという話の中に何ら信じ難いものを見出さない。お伽話に出てくる、熊や蛇と結婚する貴婦人は特に起こりそうにないことを行っていたわけではなかった。知識が進歩するにつれて、このような動物の夫は、最後には本当の姿を取り戻す一時的に魔法をかけられた人間となったが、これは後世の考え方に合致させるための後世の修正にすぎない。「下等な動物」という考えは、人間と他の生き物との本質的な違いを徐々に認識するに至った近代の考え方にすぎない。太古の人間はそれらを、特別な才能を与えられた、それ独自の掟に従う生き物と見なした。多くの場合、それらは太古の人間にとって自分よりも知的に劣るのではなくむしろ優れた存在に思われていた。今日のお伽話には、人間の役に立つ動物や言葉を話す鳥や頭のよい爬虫類が登場するが、それらは動物が人間と対等な立場を占め、また時には、姿を隠した神々の使者や下僕であった時代の化石となった遺物である。こうして今日の鳥や動物に関する迷信のうちの極めて多くが、そうした生き物たちの、万物の体系の中での劣位性ではなく、むしろ彼らが持っていると思われる知恵、頭のよさ、神秘的な力に基づいているということが理解されるのではなからうか。

注

- ℓ. 1 ◇ ancestor = forefather
 < ante- [= before] + cess- [= go] 「先行者」
 ◇ conception < conceive = think
 ◇ of = concerning; about
- ℓ. 2 ◇ that = all [wasの主語 (= Subject)]
 ◇ animate = give life to; make lively cf. animation
- ℓ. 3 ◇ enclose = surround with a wall, fence, etc.
 ◇ make difference = matter; be important
 ◇ primitive = ancient; at an early stage of civilization
 < prime = first cf. primary = earliest in time
- ℓ. 4 ◇ tribe = a group of (primitive) families or communities 「部族」
 ◇ be descended from = have (someone) as an ancestor
 < descend = go or come down cf. ascend = go up
 ◇ beast = (four-footed) animal
 ◇ fairy-tale < fairy = small imaginary being with magical powers 「魔法の力を備えた小さな想像上の存在；妖精」
 ◇ who = the lady in the fairy tale
 ◇ marry = take (a person) as one's wife or husband

- ℓ. 6 ◇ enchant ~ = use magic on ~ 「～に対して魔法を用いる」
 [第1義: charm or delight]
 < in- + chant [= sing] 「歌声で魅了する」 cf. chanson
 ◇ regain < re- + gain 「取り戻す」
- ℓ. 7 ◇ modification < modify = change slightly
 [原義: 尺度 (= mode) に合わせる]
 ◇ notion = conception; concept; idea
- ℓ. 8 ◇ gradual recognition of ~
 ○ “recognize ~ gradually” の名詞化 (= Nominalization)
- ℓ. 9 ◇ inhabitant < inhabit = live in
 ◇ endow A with B = provide A with B
 ◇ gift = talent; natural ability to do something
- ℓ. 10 ◇ obey = do what one is told to do by (someone) 「～によって為すように命じられていることを為す」
 ◇ appeared (to him) not less but more intelligent ~
 ○ not A but B = instead
- ℓ. 11 ◇ their < they = our fairy tales
 ◇ reptile = snakes, lizards, crocodiles, turtles, etc. 「地を這うもの; 爬虫類」
- ℓ. 12 ◇ fossilize < fossil = remains of an animal or a plant of a former geological age 「化石」
 cf. fossil fuel (化石燃料)
 ◇ remains = what remains
 ◇ when = in a period
 ◇ equal with ≙ equal to
- ℓ. 13 ◇ servant < serve = work for (someone)
 ◇ a great many = a very large number of
 cf. a good many = quite a large number of
- ℓ. 14 ◇ supposed = believed (wrongly) 「誤って信じられている; 仮想の」
 ◇ cunning = cunning behaviour or thought
 < cunning = clever
 ○ 第1義: ずる賢い (= sly) cf. cheat (カンニングする)
- ℓ. 15 ◇ the scheme of things = the way things are 「物事のあり方; 万物の仕組み; 森羅万象の俯瞰図」
 < scheme = system; outline

【2】

解答

1 c 2 d 3 g 4 e 5 h 6 b

解説

STEP 1 1 = c

まず、下記の対比・対照に注目。

- ① there is an element of illusion involved if we think ~ [第1段落ℓ. 6]
- ② After all, it takes ~ [選択肢 c]

上記①と②の間には〈幻想 vs 現実〉という対比・対照が認められる。

次に、下記の対比・対照にも注目。

- ③ it (= the learning of a language) is quick and simple [第1段落ℓ. 6]
- ④ it takes four years for a child to learn to speak ~ [選択肢 c]
- ⑤ it ~ takes another four or five years for it to be competent ~ [選択肢 c]

上記③と④⑤の間にも〈即席 vs 4年+4~5年の年月〉という対比・対照が認められる。

以上より、1に入るのはcであることがわかる。

STEP 2 2 = d

下記の対応関係に注目。

- ① a great number of words [第2段落ℓ. 8]
- ② count the vocabulary items [選択肢 d]
- ③ tens of thousands (of words) [選択肢 d]
- ④ about 13,000 words [選択肢 d]

以上より、2に入るのはdであることがわかる。

STEP 3 3 = g

まず、下記の対応関係に注目。

- ① vocabulary items ~ tens of thousands (of words) ~ 13,000 words [空所2 = 選択肢 d]
- ② vocabulary [選択肢 g]

次に、下記の対応関係にも注目。

- ③ this (= to build a vocabulary) alone is only ~ [選択肢 g]
- ④ we also need to know ~ [第3段落ℓ. 9]

以上より、3に入るのはgであることがわかる。

STEP 4 4 = e

まず、下記の対応関係に注目。

- ① We ~ need to ~ [第3段落ℓ. 9]
- ② In addition, we need to ~ [選択肢 e]

次に、下記の対応関係にも注目。

- ③ rules for ...ing [選択肢 e]
- ④ There are also rules for ...ing [第4段落ℓ. 15]

以上より、4に入るのはeであることがわかる。

STEP 5 5 = h

まず、下記の対応関係に注目。

- ① rules for ~ words [第4段落ℓ. 15]
- ② rules of a language [選択肢 h]

次に、下記の対応関係にも注目。

- ③ grammar and usage [選択肢 h]
- ④ word use ~ and grammar [第5段落ℓ. 18]

以上より、5に入るのはhであることがわかる。

STEP 6 6 = b

下記の対応関係に注目。

- ① silence is a part of language [選択肢 b]
- ② The quiet pauses in conversation can mean ~ [第6段落ℓ. 30]
- ③ Or they (= the quiet pauses in conversation) can indicate ~ [第6段落・ℓ. 31]

以上より、6に入るのはbであることがわかる。

STEP 7

残った選択肢 a と f には、いずれも上記見てきたような形式および内容上の関連性が認められない。したがって不要。

全訳

自分が最初に覚えた言語を話すのは、あまりにも自然なことで、その過程がいかに複雑であるかに気づくのは容易ではない。多くの人は、第2言語を学習して、いかに習得すべきことが多いかを発見しない限り、そのことを気に留めさえもしない。外国語習得にやっきになっている大人は、子供がいかに容易に労せずして言語を習得するようになる様をしばしば羨ましく思ってしまう。子供の言語習得の過程は顕著であるが、幼くして習得し始めれば、その過程は急速で単純であると考えられるなら、それには幻想の要素が含まれている。c そもそも、子供が4歳児のように話せるようになるには4年かかるのだ。平均的な子供は5歳で流暢に話せるようになるが、言語の持つより複雑かつ微妙でありながら、なお基本的な要素をこなす能力を身につけるようになるには通常もう4~5年かかるのだ。すると、言語を理解し、話せるようになるために、私たちは何を習得すべきなのか。

まず第一に、膨大な数の単語を覚えなければならない。d 人が知っている語彙項目の、信頼に値する数え方はいかなるものか、未だ誰も発見していないが、それほど教養のない人々の間においてさえも、何万という数になるのは間違いない。平均的な6歳児はおおよそ13,000語を自由に使えると見積もられている。

g 語彙を築くには、学習に多大な時間と労力の投入が必要なのは明らかであるが、これだけでは、言語能力の最も単純な部分にすぎない。単語を形作るには、舌、唇、声をどう調整すべきかも学ばなければならない。これは、身体的な障害がある人を除いたすべての人が、第一言語においてはできることである。それにもかかわらず、運動や鍛えられた手先の器用さも含め、私たちが従事する筋肉を使った他のいかなる活動にも優る速さと協同性とが、これには含まれている。この能力は、何千もの単語を形作り組み合わせるためばかりでなく、言葉だけでは表現できない微妙なニュアンスや感情を表現するためにも必要である。

e 加えて、複雑な意味を伝えるためには、単語を相互に関連づけられるようにもならなければならない。これには、その言語を話す人同士によって理解される句や文へと単語を組み合わせていく規則、すなわち言語学者の言う統語論を習得する必要がある。時間や数といった概念を表すために、あるいはそれ以外では単語の意味を変更するために、語形を変えるための規則もある。

h 言語の規則を習得するのは必要であるが、それらを、小学校で教わる文法や語法の「規則」と混同してはならない。言葉の使い方、発音、文法には、何が「正しい」かや「正しくない」かに関して相当程度の柔軟性があるのだ。生きている言語は、地域的および社会的区分による変種を伴い、絶えず変化している。これはいつの時代にも当てはまる。16世紀の間、英語には10,000の単語が追加され、シェークスピアによるものだけでも2,000ほどが追加されたと思われていた。前世紀には、マスメディアが、言語の風習に多大な影響を与えた。一方では、マスメディアは、イギリスのBBCや日本のNHKのような国営放送会社が全国標準を確立したように、発音の標準化をある程度もたらした。他方では、広告産業と同様、大衆ニュースと娯楽メディアが、各々の消費者社会での言語の形態と様式を大幅に変えてしまった。

他にも考慮すべき社会的要因がある。所与の状況において、どんな語句や文体が適切か、改まった言葉を場違いな状況で使うことは効果的ではないし失礼とさえ考えられるのは、公式の場で俗語を使うのが好ましくない効果をもたらすのとまったく同様だ。b 無言であるのが言語の一部であるのは、無音であるのが音楽の一部であるのとまったく同様だ。会話における無言の休止は、困惑、苛立ち、怒り、拒絶を表しているのかもしれない。はたまた、それは、思慮、尊敬、魅了を表しているのかもしれない。

言語の風習は、文化により異なる。それは、話す人各自によって新たに習得されねばならない。そういった風習を習得するのにとても長い時間がかかるのは、不思議なことだろうか。

注

本文

ℓ. 2 ◇ give it a second thought: give ~ a second thought 「～を考え直す」

cf. on second thought (s) (考え直して)

ℓ. 4 ◇ pick up languages without effort: 日本語の「～を選び出す」の意味の「ピックアップする」に相当する英語は、pick upではなくpick outである。

cf. pick out ~ 「～を選び出す；抜き出す」

pick up ~ 「(物体)を拾い上げる；(人間)を車に乗せてやる；(物事)を自然に身につける；(速度)を上げる」

ℓ. 6 ◇ there is an element of illusion involved ≡ An element of illusion is involved.

○ an element という新情報が文頭にくるのを防ぐため、There is an element of illusion involved. という形になった。この形式は頻出。

cf. There is no butter left in the refrigerator.

There are some girls walking there.

選択肢 c

◇ after all

①「前に言ったことにもかかわらず」「予想に反して」

cf. I expected to fail the exam, but I passed *after all*.

(試験に落ちると思っていたのに、予想に反して合格してしまった。)

②《先行する文に関して、理由や意見を述べる時に用いて》

「だって」「そもそも」「お忘れかもしれませんが」

cf. Let's finish the cake. Somebody's got to eat it, *after all*.

(ケーキを食べてしまおう。なぜなら誰かが食べなくてはならないんだから。)

※ *after all* には *finally* の意味はない点に注意。

◇ another four or five years : four or five years を1つのかたまりと見て、another が付いている。

◇ complex and subtle, but still fundamental, elements : ここは、「複雑そして微妙でありながら、それでいて根本的な要素」という意味であるが、3つの形容詞が、〈順接の接続詞 (and)〉や〈逆接の接続詞 (but)〉につながれて、3つとも最後の名詞を修飾している、という点に注意。

選択肢 d

◇ how to reliably count 〈分割不定詞 (split infinitive)〉

◇ add up to + 数値「合計〔総計〕…になる」= amount to + 数値

◇ command 「(言葉) を自由自在に操る」

本文

ℓ. 10 ◇ all except those who have ~ = all the people except those people who have ~

ℓ. 11 ◇ speed and coordination that exceeds that of any other muscular activity :

①

②

① 1 番目の that : 関係代名詞

② 2 番目の that : 指示代名詞 (= speed and coordination)

ℓ. 14 ◇ the ~ nuances ~ that words alone do not express

○ alone は名詞・代名詞の後に置かれる。

選択肢 e

◇ relate A to B 「A を B に関連づける」

◇ combine A into B 「A を結びつけて B にする」← この into は〈変化の結果〉

cf. combine A with [and] B 「A を B と結びつける」

本文

ℓ. 16 ◇ or otherwise 「あるいは；それ以外では」

選択肢 h

◇ confuse A with [and] B 「A を B と混同する」

本文

ℓ. 21 ◇ some = approximately; about; around

ℓ. 26 ◇ respective 「個々の」 < respect (点)

cf. respectable (まともな←× 尊敬に値する)

respectful (敬意を表する；礼儀正しい)

ℓ. 28 ◇ given 「所与の；特定の」

ℓ. 29 ◇ using slang could have ~ : この could は假定法過去。条件は主語。「俗語を使うなら」ととらえる。

【3】

解答

(1) kept (2) ① with ② below (3) much (4) ill

解説

- (1) a 「彼には秘密があったが、死ぬまでそれを人に知られることはなかった。」
b keep A to *oneself* 「A (物事) を人に話さないでおく [胸に秘めておく；秘しておく] (= not express (comments, views, etc.)) という慣用表現を問う問題。
(2) a 「彼が最高のアマチュア選手の1人であるというのは確かだが、もちろん、彼の技術はプロの技術によってはるかに超えられている。 →プロの技術の方がはるかに上だ。」

○ surpass = be greater or better than

○ that = the skill that は「the + 単数名詞」の代用として用いる。

b rank with ~ 「~と肩を並べる」 (= have a place with ~)

cf. No one can *rank with* her in singing. (歌で彼女に及ぶ者はいない。)

○ be below ~ 「~以下で；~より劣って」

= be lower than, in place, position, amount, value, price, worth or quality

cf. He *is below* her in talent. (彼は才能では彼女に及ばない。)

- (3) a 「物質以外の物には何も興味を抱かなくなるにつれて、その分我々は人間らしくなくなっており、その意味では人間性を失っているのだ。」

○ other than ~ = except ~

○ correspondingly 「対応して；同時に」

cf. When wages are low, benefits are *correspondingly* lower.

(賃金が低いとそれに応じて給付金も低くなる。)

○ humanity

① human beings as a whole 「人類」

② the condition of being human 「人間性」

③ sympathy and kindness towards others 「思いやり」

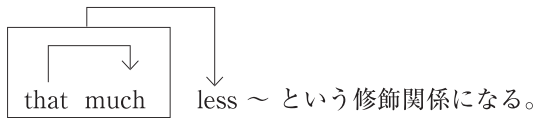
④ (humanities) studies concerned with human culture, such as literature or history 「人文科学」

b that () less like ~ は correspondingly less like ~ の部分に当たる。

この that は「それほど (= to such a degree; so)」の意の副詞。

cf. He wasn't *that* far away. (それほど遠くへは行っていなかった。)

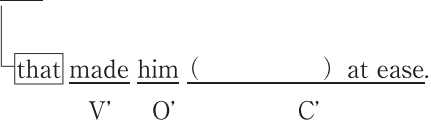
しかし、副詞 *that* は比較級を修飾することはできないため、*that* と *less* の間に *much* が入る。要するに、



- (4) a 「科学者と詩人が、別れず手に手を取って歩む時代があった。前者が知覚した世界において、後者は快くくつろいでいたのだった。」

- hand in hand = holding hands, especially to show affection for each other
- universe = the world; all the objects under consideration
- perceive = apprehend
- find + *oneself* + C 「気がつくと C している」
- be comfortably at home 「くつろいでいる」 (at home の程度が comfortably と考える。)
- at home = at *one's* ease; as though in *one's* own house; comfortable and at ease

- b the other found nothing



「自分を () するものは、何も見つけなかった」が直訳。したがって () には否定的な意の副詞が入ることがわかる。at ease を修飾する否定を表す副詞は ill である。したがって (ill) at ease が正解。

- at *one's* ease = free from anxiety; in the state of freedom from anxiety, embarrassment or awkwardness
- ill at ease = anxious; uncomfortable; embarrassed; uneasy
- この ill は 1987 年の東大の下線部訳で出題されている重要表現。ここで整理しておこう。

ill =

- ① badly; wrongly; imperfectly

cf. *ill* used (酷使された; 悪用された; 虐待された)

- ② scarcely

cf. I can *ill* afford to purchase a condominium. (私にはマンションを買う金がない。)

- ③ unfavorably

cf. Don't speak *ill* of the dead. (死者の悪口を言ってはならぬ。)

Don't speak *ill* of someone behind his back. (人の陰口をたたいてはならぬ。)

※ speak *ill* of は古い表現で上の例のような格言的な言い回しでのみ用いる。

日常的には、be rude about, say something bad about, criticize 等を用いる。

【4】

解答

「全訳」の下線部①, ②, ③参照。

全訳

言語はそれ自体ではないものの意味を表すこともあり得るが、それをいくらか間接的な方法で行う。煙は火事を示すものと見なされうる。そして、①舌の形状をした炎の図を含む四角形のラベルが液体の容器に貼り付けられていれば、それはその中身が可燃性であることを示しているものとして受け取られる。これらのいずれの場合においても、指し示すものと指し示されるものとの間には、ある明確な関係が存在する。しかしながら、言語は意味作用の一手段として、もっと恣意的な方法で意味を生み出す。言語においては、言葉の形とその形によって表される意味内容との間に何ら必然的な関係はない。「snake」という音の組合せが「手足のない爬虫類」という概念を表すべき特定の理由は、社会的慣習以外には何もないのだ。概念自体が、我々がその概念を表すために用いる音を決定するわけではないのである。②もしこのことが正しいなら、同様の概念を表すために、すべての言語がまったく同一の音の組合せを用いなければならないであろうが、そのような現象が存在しないことは明らかである。例えば「snake」は、ドイツ語では「Schlange」であり、ポーランド語では「waz」であるが、そのどちらもが発音において互いに、またそれに相当する英語の語からも、かけ離れている。③このように、1つの言葉は特別に相応しい音として我々の耳に響くかもしれないが、それでもやはりその言葉がその特定の意味を担うのは、単に社会的慣習によるにすぎない。その音とその意味との関係は大半の語に関して極めて恣意的である。

注

- ℓ. 1 ◇ stand for = represent or be a symbol for
◇ somewhat = to some degree
- ℓ. 2 ◇ oblique = not going straight to the point; indirect
◇ indication = a remark or sign that shows that something is happening or what somebody is thinking or feeling
 < indicate = point out; show
◇ emblem = symbol; representation 「象徴する絵；印；マーク；ラベル」
- ℓ. 3 ◇ attach = fasten, join or fix
- ℓ. 4 ◇ inflammable [ɪnflæməbl] = easily set on fire; flammable
 ⇔ nonflammable = not catching fire easily
 cf. inflammation (炎症)
- ℓ. 5 ◇ that which = what
- ℓ. 6 ◇ signification = the representation or conveying of meaning
 < signify = be a sign or an indication of; be a symbol of; have as meaning
 < significant = having a meaning
◇ arbitrary [ˈɑːbɪtrəri] = based on random choice rather than any reason or system
 「恣意的な」
- ℓ. 7 ◇ necessary = inevitable 「必然的な」

- ℓ. 8 ◇ other than = except
- ◇ convention = a custom or customary practice; a way in which something is usually done; socially acceptable behavior
 - ◇ why
 - 先行詞は particular reason。
 - 先行詞の直後に other than convention が挿入されているので、この why は省略不可。
(why を省略した場合、息を継がずにすぐに S + V が後続しないので)
- ℓ. 9 ◇ limbless = without limbs < limb = a leg, an arm or a wing
- ◇ reptile = any cold-blooded scaly animal
 - scaly < scale 「鱗」
 - ◇ the sounds (that) we use to signify it
 - < we use the sounds to signify it
 - it = the notion
- ℓ. 10 ◇ If *this* were the case = If the notion itself determined the sounds we use to signify it
- ※ this = the notion itself determines the sounds we use to signify it と、*this* は前文の肯定の内容を指すが、これは、この文が仮定法だからではない。
 - cf. “Aren’t you a teacher?”
“Yes. *That* is the case.” (That = I am a teacher.)
 - ※通常、that や this が、前方照応的な働きをする時、肯定文を受けることが多い。
 - the case = true; so 「実情」
cf. it is *the case* that ~ = it is true that ~
 - ◇ settle on = stay on
 - ◇ sound cluster 「音結合群」
※ℓ. 8 の the combination of sounds を専門用語で言い換えたもの。
 - cluster = a group of similar things 「同種の物の集まり」
cf. a *cluster* of bees (ミツバチの群れ)
- ℓ. 11 ◇ equivalent [ɪkwɪvələnt] = having the same meaning
- ◇ , which they clearly do not ≐ , but they clearly do not settle on the same sound cluster to signify equivalent notions
 - clearly : 「文修飾」で they do not を修飾。
- ℓ. 12 ◇ Schlange 「シュランゲ」 ※独語の名詞は大文字で始める。
- ◇ waz 「ヴォウンシュ」
 - ◇ which : 先行詞は “Schlange” and “waz”。
- ℓ. 13 ◇ the English word = “snake”
- ◇ thus = in this way; like this; as a result of this
 - ◇ particularly appropriate ~ 「他の音声によってその概念が表されることなど考えられぬほどに適切に《直訳》」
 - appropriate = proper or suitable

ℓ. 14 ◇ it ... that ... : 強調構文。

◇ none the less = nonetheless; nevertheless; in spite of that

○ the = by so much; by that degree 「その分だけ」

※ここでは「a word may sound particularly appropriate to us の分だけ」。

ℓ. 15 ◇ link = a relationship or connection between things or people

◇ for the most part = in most cases; usually

【5】

解答

(1) b (2) a (3) d (4) c (5) c

(6) a (7) b (8) d (9) d (10) a

Script

CD 17 ~ 19

W : Today we are happy to have with us Dr. Hollander, an ecologist from the University of Massachusetts and a prominent activist in a number of organizations including Science for the People, which is based in Washington, D.C. Our other main guest is Dr. Benway, who is also an ecologist, but is representing a commercially sponsored group called Pacific Aquaculture. Although both of them are experts in the same field, we are sure to hear quite different views on the subject of aquaculture. We'll begin the interview with Dr. Benway. [Slight pause] Dr. Benway, could you give us a brief summary of your background as an ecologist and how you came to represent Pacific Aquaculture?

M : I'd be glad to, Sara. I majored in biology at U.C.L.A. during the late 70s and then spent one year doing research in Australia. I got my master's and Ph.D. at the University of Queensland. I decided to work for Pacific Aquaculture, which represents major aquaculture interests in the Pacific area, particularly in Southeast Asia.

W : Was there any particular reason for your choice?

M : Yes, there was. While I was a university student, I began to get the impression that though most of my fellow marine biologists were very sincere about their

research, and quick to point out how modern industry was damaging the environment, they were making no effort to work with the industries in order to change things.

W : Before we go into the issues more deeply, could you briefly explain what “aquaculture” is?

M : Aquaculture is to the sea what agriculture is to the land. Agriculturalists farm the land and aquaculturalists farm the sea. Most people would call this “fish farming,” but it is much more. Around the world people are now raising not only fish, but also shrimp, crabs, clams, mussels, and sea plants such as kelp, *wakame*, and *nori*.

W : Why has aquaculture grown so rapidly recently?

M : The demand for seafood has grown with the increase in human population. Fishing techniques have improved to meet the increased demand to the extent that many of the world’s most important fish supplies are in danger. Fish farms try to satisfy human demands without endangering the natural supplies.

W : That seems to be very logical, but in fact, don’t shrimp and fish farms themselves put pressure on the natural marine environment?

M : Well, yes, to an extent. But the benefits far outweigh any harm done.

W : Could you be a little more specific? For example, isn’t it true that rich shrimp farm developers often make quick profits and then abandon farms?

M : That is an exaggeration of the facts. Creating and maintaining a shrimp farm is quite expensive. Properly located and well-constructed shrimp farms cost from \$10,000 to \$50,000 per hectare, so they could not be abandoned easily. It is true, however, that some farms have been abandoned, but these farms were usually small and built without proper planning or enough capital.

W : What about the idea that aquaculture protects marine species in the wild? Isn’t it true that most of the shrimp from farms are raised from young shrimp caught in

the wild? How can that be protecting the wild stocks?

45 M : It is true that many shrimp farmers, especially in South America, prefer to raise the young shrimp from wild stocks, but this is because they are believed to be healthier and better tasting. Therefore, they are worth more money. This is an economic reality. But the Pacific Aquaculture advisors are trying to strike a balance between such economic pressures and ecological concerns.

50 W : Thank you, Dr. Benway. We have to pause for a commercial break, after which we will ask Dr. Hollander a few questions. Then we will open the floor to questions from the audience to both of you. [616 words]

全訳

W : 本日は、光栄にも、マサチューセッツ大学の生態学者であり、ワシントン D. C. に拠点を置く「人民のための科学」などを含め、多くの団体において著名な活動家でもあるホルンダー博士においでいただいています。もうひとつ、メインゲストにお招きしているのは、ベンウェイ博士です。彼も同じく生態学者でいらっしゃいますが、「太平洋の養殖」という、民間スポンサーがついた団体の代表をしておられます。お二人とも同じ分野での専門家ですが、水産養殖についてはかなり異なった見解を伺えることでしょう。まず、ベンウェイ博士のインタビューから始めます。[ちょっと間を置いて]ベンウェイ博士、博士の生態学者としての経歴と、どのようにして「太平洋の養殖」の代表になったのかを簡単にお話しいただけますか。

M : ええ、喜んで、サラ。私は70年代後半にカルフォルニア大学ロサンゼルス校で生物学を専攻し、それからオーストラリアで1年間研究をしました。クイーンズランド大学で修士号と博士号を取得し、「太平洋の養殖」で働くことを決めました。それは特に東南アジアでの太平洋区域における養殖の主要な同業者の代表であります。

W : その選択にあたり、何か特別な理由があったのですか。

M : ええ、ありました。私が大学生だった頃、私の仲間の海洋生物学者のほとんどはとも研究熱心で、近代産業が環境に被害を与えていることを早くから指摘していたのに、産業に働きかけてその状況を変えようという努力はまったくしていないという印象を受けるようになったのです。

W : その問題について、より深くお話しする前に、「養殖」とは何かを手短にご説明いただけますか。

M : 養殖と海との関係は、農業と土地との関係と同じです。農業主は土地を耕し、養殖に従事する者は海を耕すのです。たいていの人は、これを「養魚」とでも呼ぶと思いますが、それだけではないのです。世界中で、今や魚だけでなく、エビ、カニ、ハマグリ、ムラサキイガイ、それから昆布、ワカメ、ノリといった海草も育てています。

- W：なぜ養殖は最近急速に発展したのでしょうか。
- M：人口の増加に伴って、海産物の需要が増えてきています。その需要増に見合うために、漁業技術が改良され、世界の最も重要な魚の供給が危機的状況になっているほどです。養魚は、自然の供給を危機にさらすことなく、人間の需要を満たそうとするものです。
- W：それはとても論理的に思えますが、実際のところ、エビや魚の養殖自体が自然の海洋環境に負担をかけてはいないのですか。
- M：ええ、ある程度は。しかし、利点の方が加えられる害よりもずっと大きいのです。
- W：もう少し具体的にお話しいただけますか。例えば、裕福なエビ養殖の開発業者が短期間で利益を上げると、すぐにそこを放棄するというようなことは本当ではないのですか。
- M：それは事実を誇張しています。エビ養殖場を作って維持していくのには、かなり費用がかかります。適切な場所に上手く造られたエビ養殖場は、1ヘクタール当たり1万から5万ドルもコストがかかるので、簡単に放棄することはできません。しかしながら、養殖場の中には見捨てられるものがあるのも事実です。ですが、そのような養殖場はたいていは小さく、適切な計画や十分な資本がなく作られたものです。
- W：養殖が野生の海の種を守るという考えについてはどうですか。養殖場のエビのほとんどは、野生の若いエビを捕まえて育てたものだというのは本当ではないのですか。それがどうして野生の種を守っていると言えるのでしょうか。
- M：特に南アメリカでは、多くのエビ養殖業者が、野生の若いエビを育てるのを好むのは事実ですが、それはその方が健康で味がいいと思われているからなのです。だから、その方がお金になる。これが経済的実態です。しかし、「太平洋の養殖」のアドバイザーは、そのような経済的圧力と生態学的問題との間の均衡を図ろうと努力しています。
- W：ありがとうございます、ベンウェイ博士。いったんコマースルを挟んで、その後ホルンダー博士にいくつか質問したいと思います。その後で、視聴者からお二人への質問を受け付けます。

注

- ℓ. 1 ◇ we are happy to have ~ with us 「～に来てもらって嬉しく思う」
◇ ecologist 「エコロジスト；生態学者」
- ℓ. 2 ◇ prominent 「著名な」
◇ activist 「活動家」
- ℓ. 4 ◇ represent 「～を代表する」
- ℓ. 5 ◇ commercially sponsored group 「民間スポンサーがついた団体」
- ℓ. 8 ◇ give a brief summary of ~ 「～について簡単に述べる」
- ℓ. 9 ◇ how you came to ... 「どのようにして…するようになったのか」
- ℓ. 11 ◇ spend (time) ...ing 「…することに（時間を）費やす」
◇ master 「修士号」
◇ Ph. D. 「博士号」
- ℓ. 17 ◇ marine biologist 「海洋生物学者」
◇ be sincere about ~ 「～について熱心な」

- ℓ. 18 ◇ be quick to … 「…するのが素早い」
 ◇ point out ～ 「～を指摘する」
- ℓ. 19 ◇ make (no) effort to … 「…するために努力する〔しない〕」
- ℓ. 21 ◇ go into the issues more deeply 「その件についてより深く論じる」
- ℓ. 23 ◇ A is to B what C is to D 「A と B との関係は C と D との関係と同じである」
- ℓ. 24 ◇ most people *would* call this ～ 「ほとんどの人はこれを～と呼ぶであろう」
- ℓ. 25 ◇ it is much more 「それ以上のものがある；それだけではない」
- ℓ. 26 ◇ mussel 「ムラサキガイ；ムール貝」
 ◇ kelp 「ケルプ（コンブ科大型褐藻の総称）」
- ℓ. 28 ◇ with the increase in ～ 「～の増加に伴って」
- ℓ. 29 ◇ to the extent that … 「…という程度にまで」
- ℓ. 30 ◇ fish supplies 「魚の供給」
- ℓ. 31 ◇ endanger ～ 「～を危険にさらす」
- ℓ. 33 ◇ put pressure on ～ 「～に圧力をかける」
- ℓ. 34 ◇ to an extent 「ある程度は」
 ◇ far outweigh ～ 「～を大きく上回る」
 ◇ any harm done = any harm that is done 「加えられるどんな害も」
- ℓ. 35 ◇ Could you be a little more specific? 「もう少し具体的に話していただけますか？」
- ℓ. 36 ◇ abandon ～ 「～を見捨てる；放棄する」
- ℓ. 37 ◇ exaggeration 「誇張；大きさに言うこと」
- ℓ. 38 ◇ properly located 「適切な場所に造られた」
- ℓ. 44 ◇ How can that be …*ing*? 「どうしてそれが…することになるのか？」
 ◇ the wild stocks 「野生の種」
- ℓ. 47 ◇ be worth more money 「もっと金になる；より高く売れる」
- ℓ. 48 ◇ strike a balance between A and B 「うまく AB 間の均衡をとる；A と B をうまく両立させる」
- ℓ. 50 ◇ pause for a commercial break 「コマーシャルのために中絶する」
 ◇ ～, after which … 「～, その後で…」
- ℓ. 51 ◇ open the floor to questions from the audience 「会場の聴衆に討論の参加を許す」

【6】

解答

「全訳」参照。

全訳

彼女は、自分の友人の中に新たな知人を加えることに熱心ではないのと同じくらい、自分の考えの中に新たな考えを取り入れることに熱心ではなかった。自分が会う人の顔は、見慣れたものにしてきたかかったのと全く同じように、思想というものもよく吟味してからでない、それらに自分の新たな思想となる特権を与えてやろうとはしなかったのである。知らない人がいることは不便なことであった。知らない人をのけものにしてちょっと冗談を飛ば

したり、その人たちの知らないことをちょっと言及したり、思い出したりして微笑みを浮かべることは、エチケットの手前できなかったからであった。だから、論理的に考えて筋の通った話なのだが、当然の結果として彼女は、自分の家や庭だけを相手に1人いるときに最も幸せだということになる。というのは彼女の言葉によれば、人は自分ほどには他人のことはわからないのだし、最も評価している友人でさえも、意見に反駁^{はんぱく}したり、意見が折り合わなかったり、予期せぬ意見を持ち出してきたりするからだとなる。

注

- ℓ. 1 ◇ not ~ any more than ... = no more ~ than ...
○ any more than (she was eager) for ~
- ℓ. 2 ◇ just as ~, so ... 「ちょうど~であるように, ...である」重点は「...」にある。
- ℓ. 3 ◇ her intimacy
she was intimate with the ideas
↓ 名詞化
her intimacy with the ideas
↓ 後半を自明なものとして省く
her intimacy (with the ideas)
○ be intimate with ~ = be familiar with ~
- ℓ. 4 ◇ forbade < forbid = refuse to allow
- ℓ. 5 ◇ exclude = shut or keep out; refuse to admit; prevent from entering
◇ little allusive or reminiscent smiles : a little allusive or reminiscent smile の複数形
○ allusive = containing allusion < allusion = a reference, in speech or writing, whether direct or (usually) indirect
○ reminiscent = remembering what is past; inclined to talk about the past; reminding of; suggestive of
- ℓ. 6 ◇ happiest ... 同一物の比較なので the はつかない。
- ℓ. 7 ◇ as she said ... as は関係代名詞。先行詞は because の節中の内容。